

**令和6年度校内研究まとめ**

**グローバルリーダーに求められる  
確かな学力の育成  
～情報活用能力の育成～（2年次）**

# 令和6年度校内研究テーマ

## グローバルリーダーに求められる

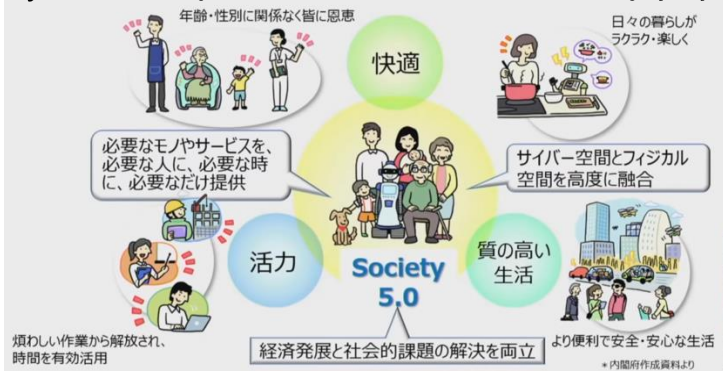
## 確かな学力の育成

## ～情報活用能力の育成～（2年次）

### 【学校教育目標】

グローバルリーダー（Think globally, act locally）の育成  
～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、  
自己を磨き合う子どもの育成～

### 【社会からの要請】



### 【児童の実態】

OR5年度全国学力状況調査

- ・ 知・技 …国語83.9%、算数82.1%
- ・ 思・判・表 …国語80.8%、算数75.5%

「小学校学習指導要領解説 総則編 p 48」

(1) 学習の基盤となる資質・能力 (第1章第2の2の(1))

イ 情報活用能力

情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。将来の予測が難しい社会において、情報を主体的に捉えながら、何が重要かを主体的に考え、見いだした情報を活用しながら他者と協働し、新たな価値の創造に挑んでいくためには、情報活用能力の育成が重要となる。また、情報技術は人々の生活にますます身近なものとなっていくと考えられるが、そうした情報技術を手段として学習や日常生活に活用できるようにしていくことも重要となる。

# 学級経営

「フリートーク」

「ほめ言葉のシャワー」

「価値語」

「成長ノート」

グローバルリーダー (Think globally, act locally) の育成  
～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、  
自己を磨き合う子どもの育成～

受  
県  
は  
の

外  
外  
国  
国

グローバルリーダーに求められる  
確かな学力の育成  
～情報活用能力の育成～ (2年次)

究  
点  
を

学級経営



### 3 学級経営の充実と生徒指導との関連

学習指導要領第6章の第3の1の(3)で、次のように示している。

(3) 学級活動における児童の自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の児童についての理解を深め、教師と児童、児童相互の信頼関係を育み、学級経営の充実を図ること。その際、特に、いじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図るようにすること。

#### (1) 学級経営と学級活動における児童の自発的、自治的な活動

学級経営とは、一般的に、その担任教師が学校の教育目標や学級の実態を踏まえて作成した学級経営の目標・方針に即して、必要な諸条件の整備を行い運営・展開されるものと考えられる。

学級経営の充実については、第1章の第4の1の(1)で「学習や生活の基盤として、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てるため、日頃から学級経営の充実を図ること。」と示されている。

1  
指導計画の作成に当たっての配慮事項

# フリートークの取組

1. 本校が取り組むフリートークとは・・・

お題に沿って、児童が自由に自分の考えを伝え合う活動

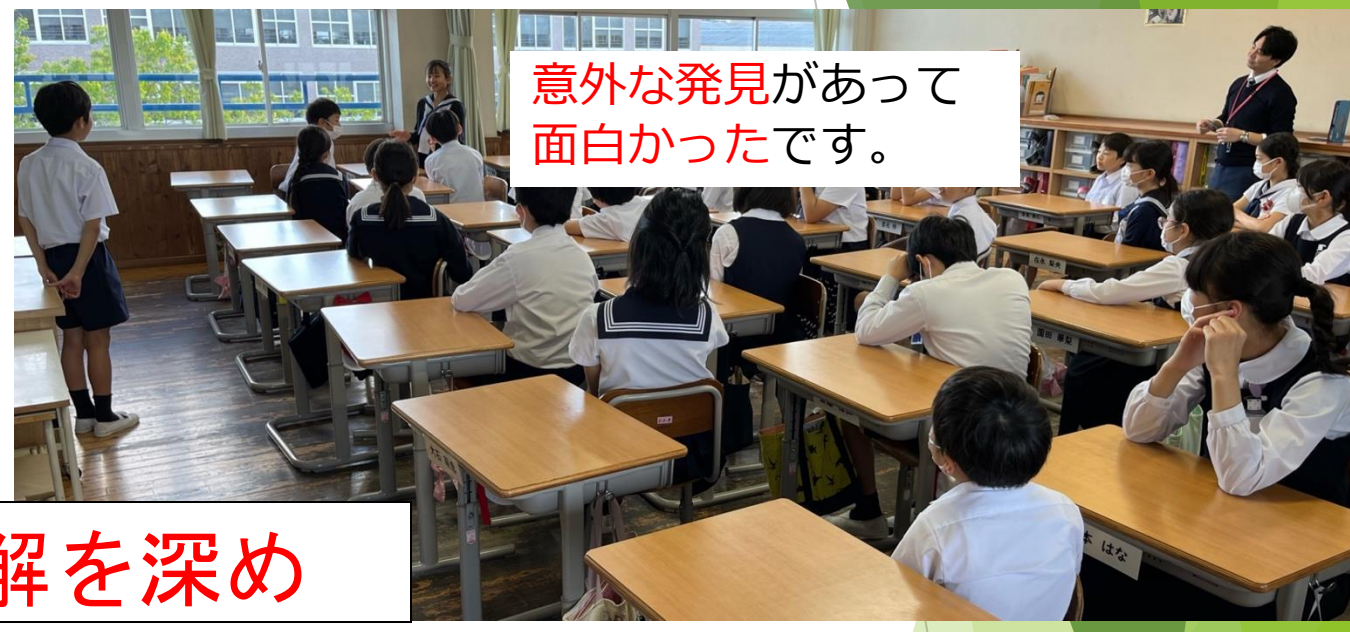


<ねらい>

相互理解を深めたり、共感的に聴く姿勢や心を育んだりすることにより、コミュニケーション活動の土台となる豊かな人間関係を醸成する。



# フリートークの取組



相互理解を深め



共感的に聴く姿勢や心

児童名



# ほめ言葉のシャワーの取組

## 1. 本校が取り組むほめ言葉のシャワーとは・・・

一人ひとりの良いところやがんばりを見つけ合い伝え合う活動



自信と安心

\* 「小学校発！一人ひとりが輝くほめ言葉のシャワー」 菊池省三 日本標準

<ねらい>

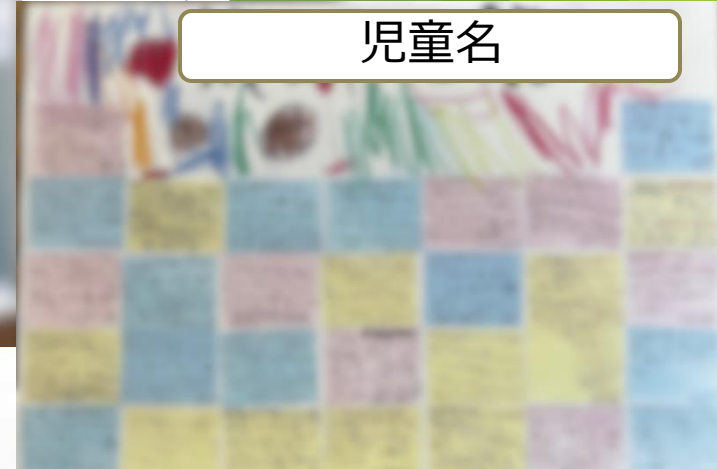
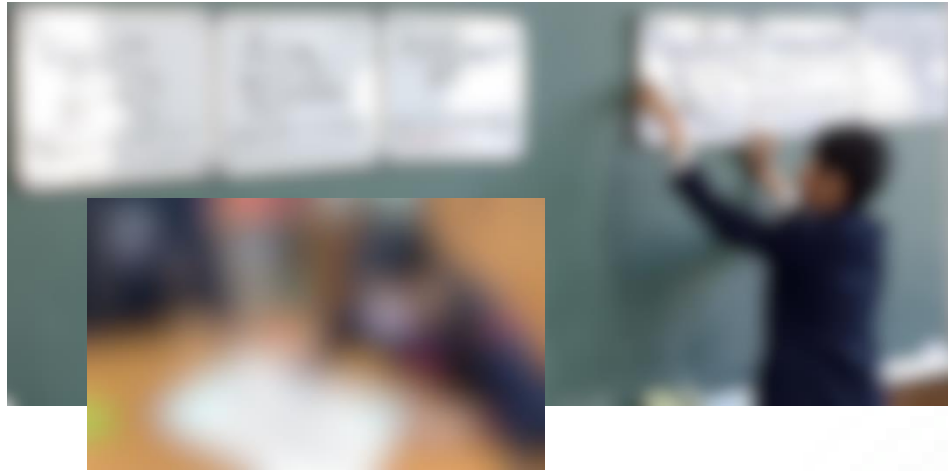
### ① 「自己肯定感を高める」

友達からさまざまなほめ言葉を受けることによって、自分のいいところを再認識したり、新しい良さを発見したりすることを通して、自己肯定感を高める。

### ② 「学級に受容的な雰囲気を作る」

お互いの良さを見つめ直し、相手の立場に立って考えることができるようになったり、毎日様々なほめ合う言葉に接したりすることを通して、学級に受容的な雰囲気を作ることができる。また、共感的な人間関係を育み、教室を自信と安心の場所にする。

# ほめ言葉のシャワーの取組



児童名

いいところを再認識・新しい良さを発見

様々なほめ言葉に接し



児童名

「いじり」  
→「あやめかえんたいあひら」  
かんじとひらがな

児童名

児童名

先生も参加（楽しい・安心）



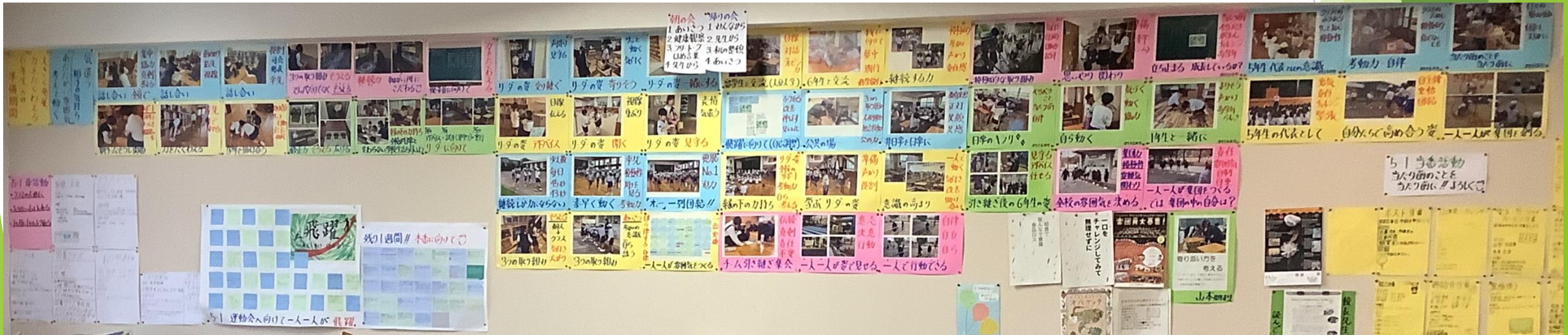
# 価値語の取組

## 1. 本校が取り組む価値語とは・・・

子どもたちの考え方や行動をプラスに導くための言葉。また、広めたいと思う姿、良い姿、目指す姿を表した言葉

<ねらい>

価値語を示すことにより、子どもたちの感化を促し、自発的な成長を目指す。





# 価値語の取組



1年部

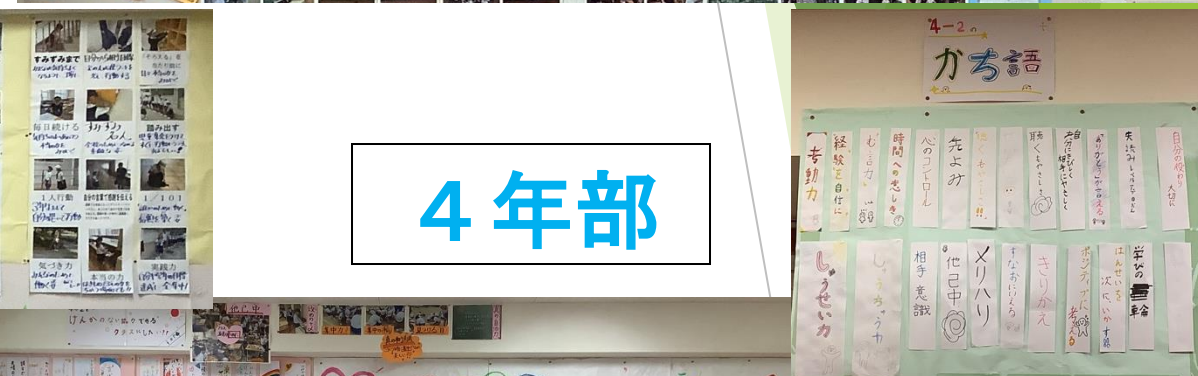
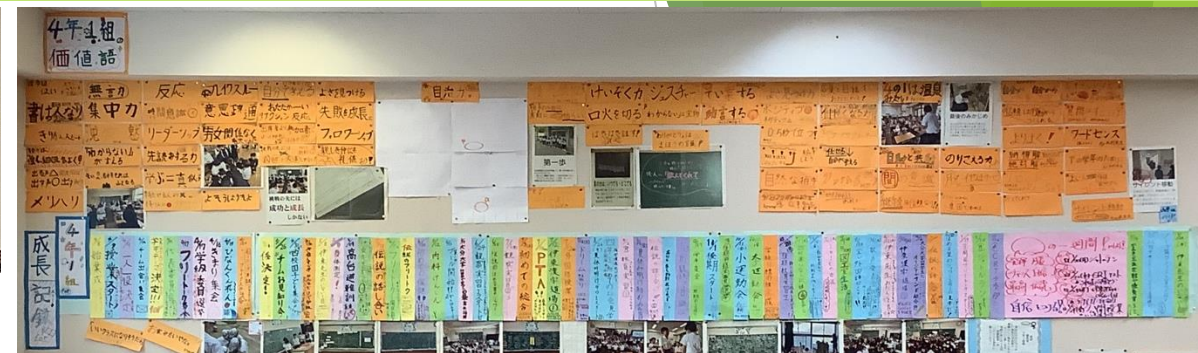
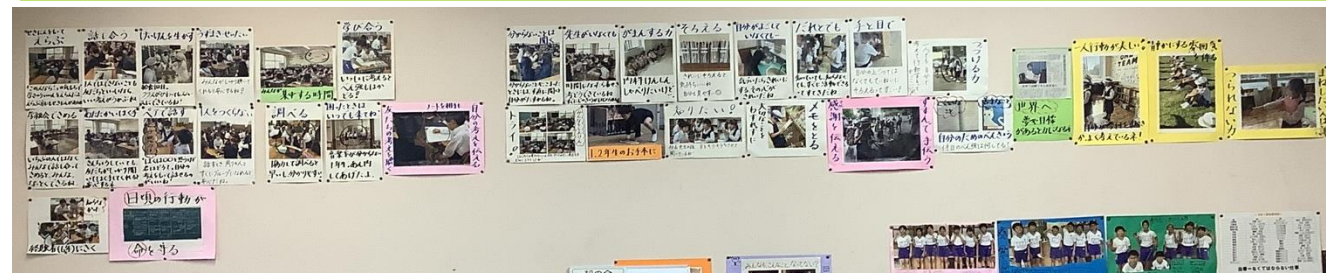


2年部





# 価値語の取組



4年部

3年部

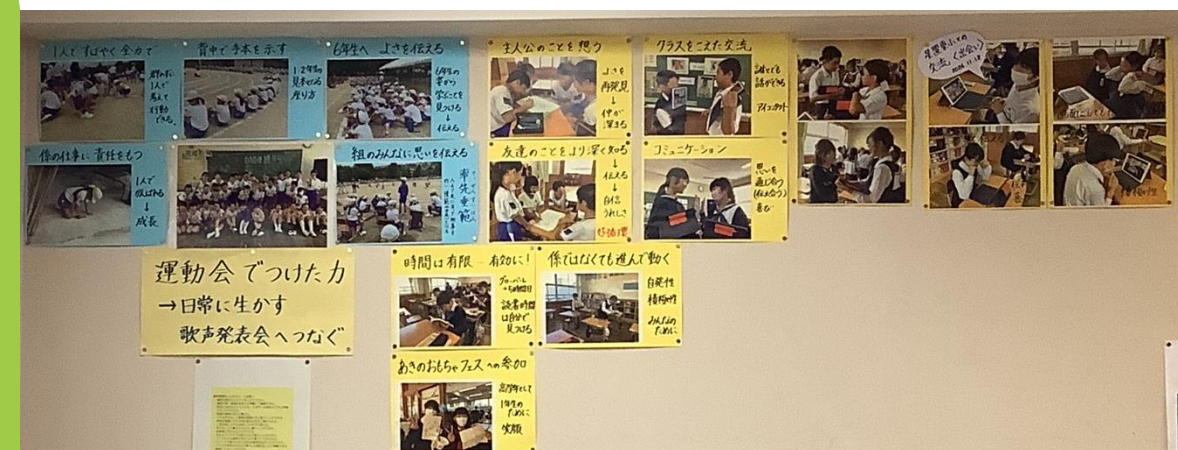




# 価値語の取組

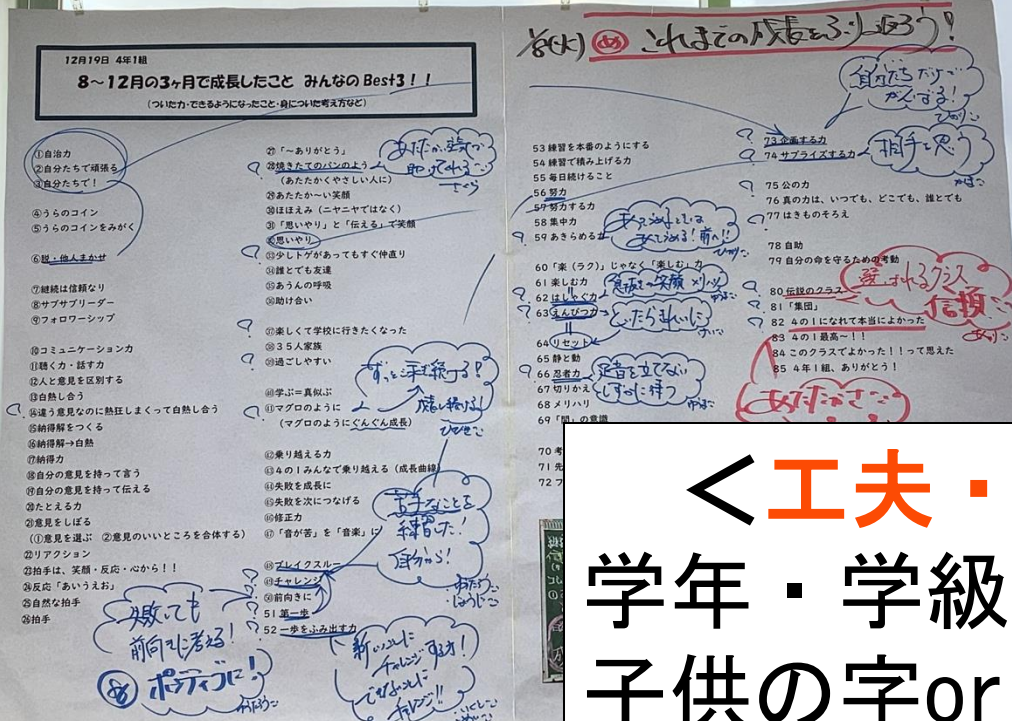
6年部

5年部





# 価値語の取組



**<工夫・個性>**  
**学年・学級**  
**子供の字 or 教師の字**  
**内容**  
**場所**  
**貼り方**  
**デジタル or アナログ**

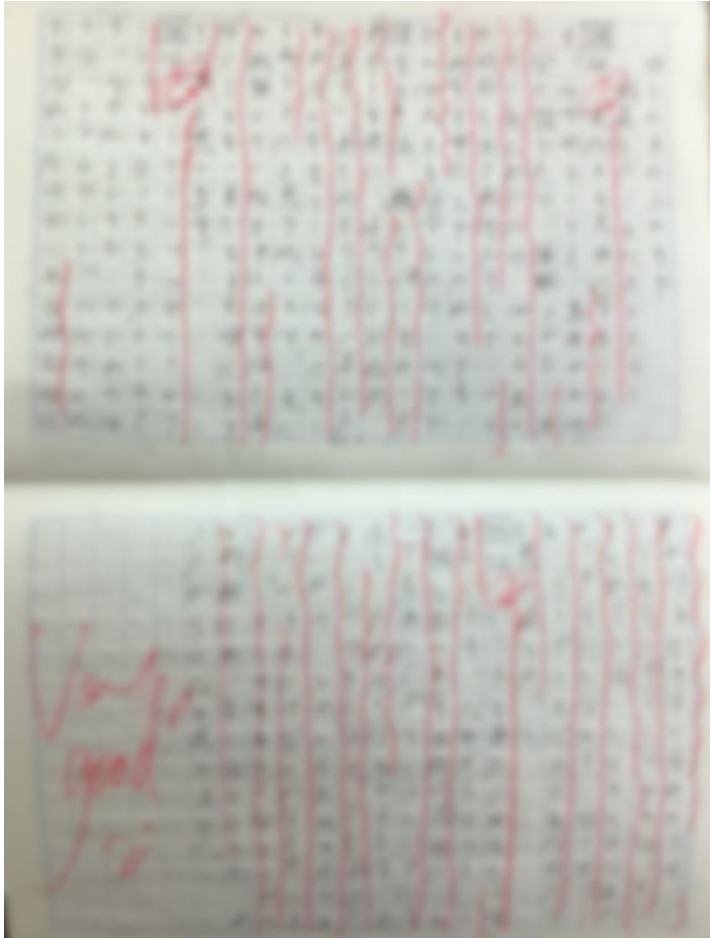




# 成長ノートを取組

## 1. 本校が取り組む成長ノートとは・・・

「自分の内面を見つめ、それを自分の言葉で書き記していきながら、教師と子どもがつながり、成長へと向かうためのノート」



### <ねらい>

① 「子どもたちに、**心の成長を実感**させる」

学校生活の中での望ましい姿や考えさせたい出来事について**自分の内面を見つめ**させながら、その時その場面にあった言葉で書かせたり、それに対する**教師の考えを伝え**たりすることを通して、**心の成長を実感**させるとともに**自己肯定感**を高める。

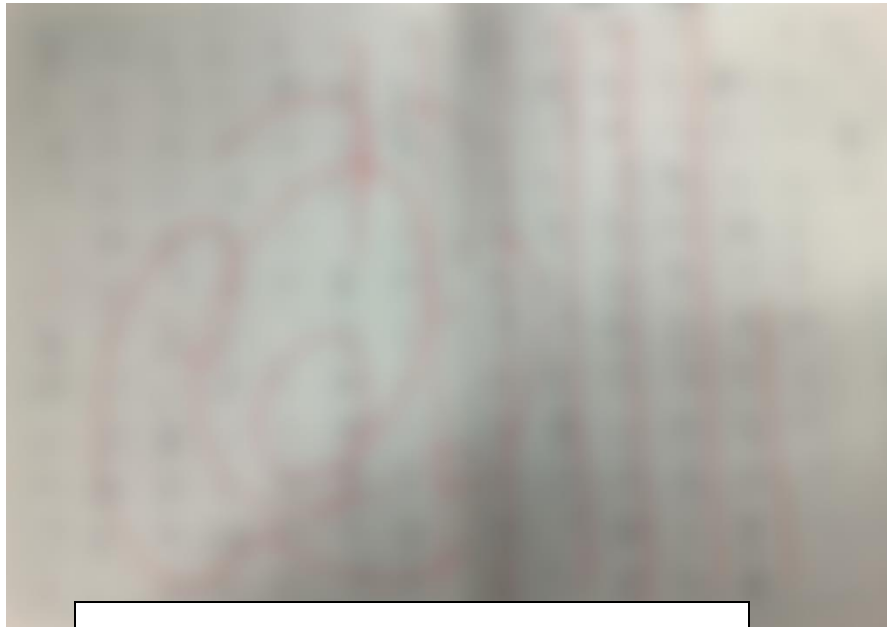
② 「教師が**子どもとつながる**」

子どもが表現した内容に心を傾け、**些細な変化や成長を見逃さず**、**個々の内省と教師との対話を繰り返しながら**、子どもに**寄り添い繋がり**ていく。

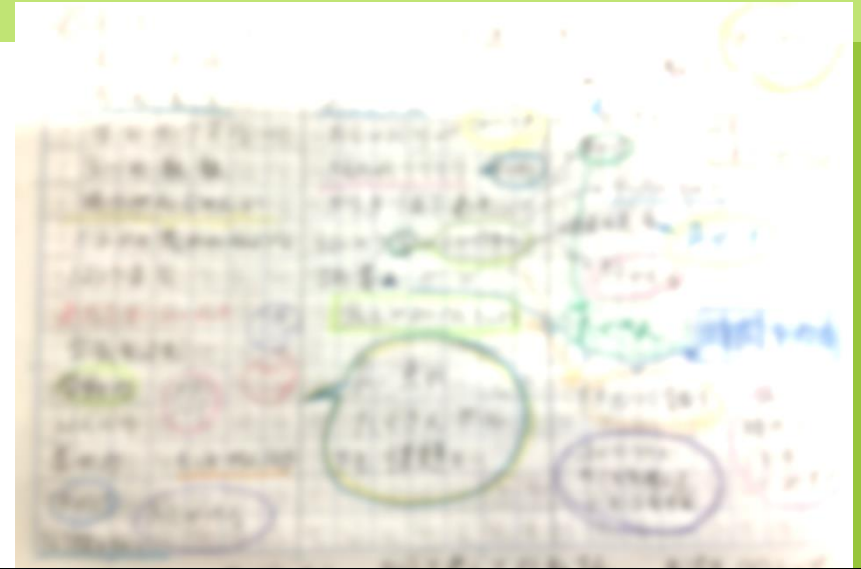
③ 「**書くこと**に慣れさせる」

褒めて励まししながら、**繰り返し取り組んでいくことにより「書ける」「書いてみたい」という気持ち**を持てるようにしていく。

# 成長ノートを取組

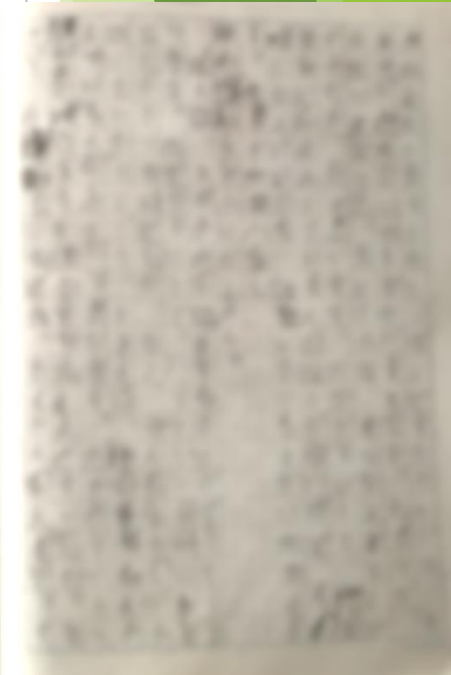
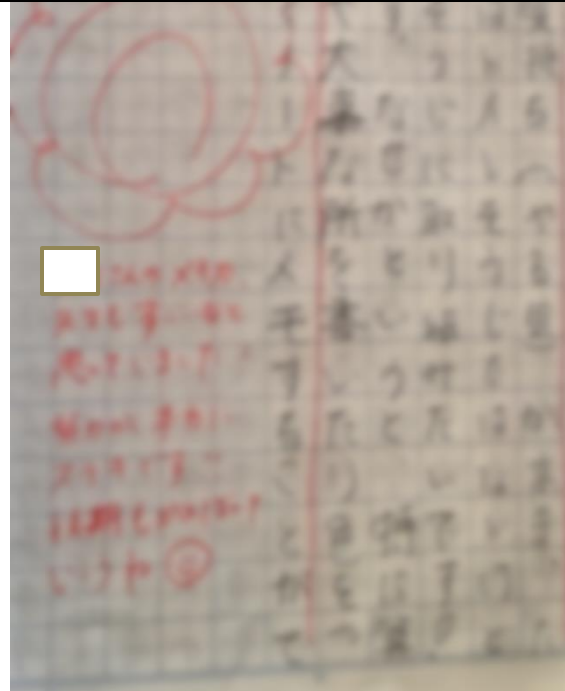


心の成長を実感



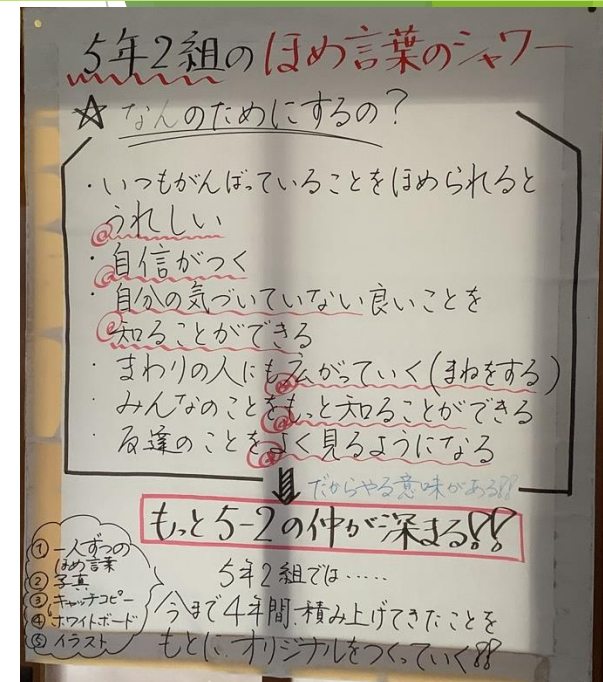
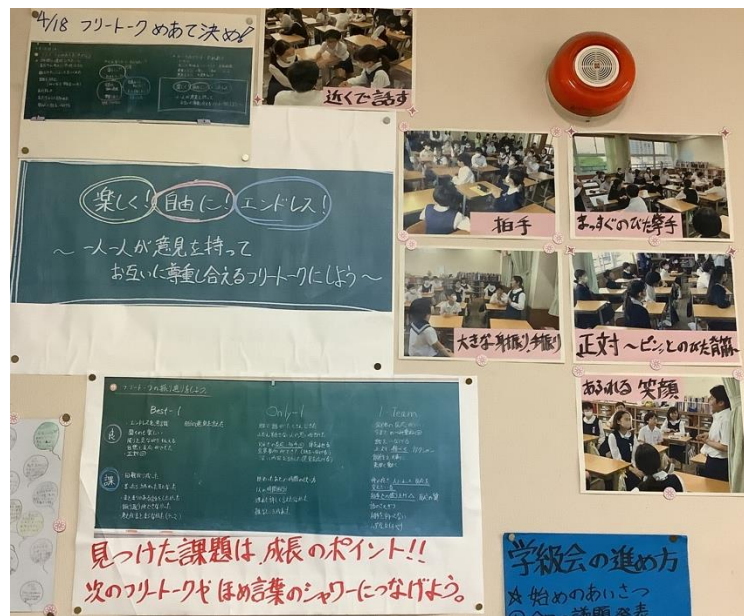
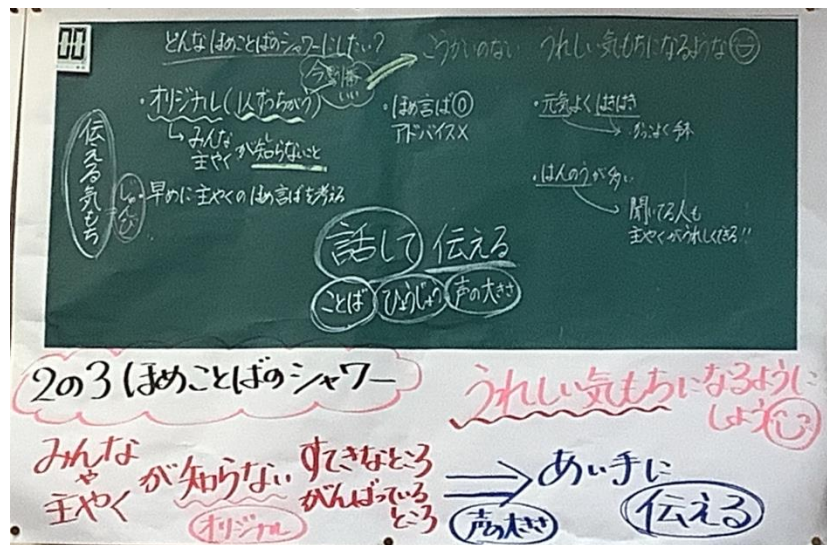
教師が子どもと  
つながる

書くことに慣れさせる

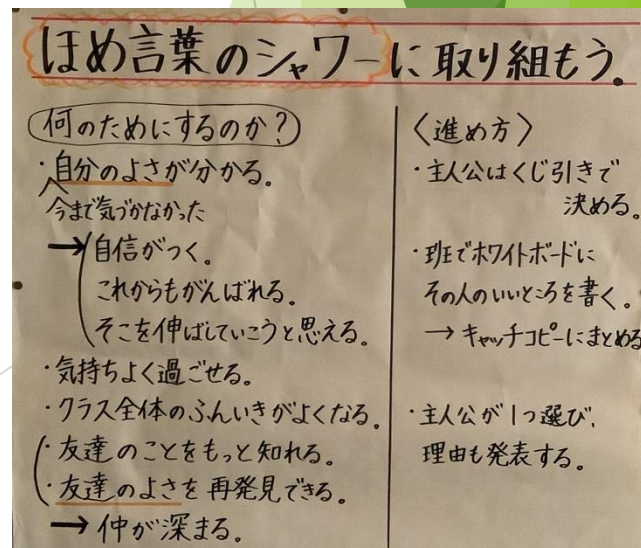




# 学級経営の取組



## めあて・目的 の確認 → 「見通し」





# 学級経営の取り組み

3年3組のフリークを振り返り、考える。

＜2年生までの課題＞

- 拍手の大切さ → あつちがたまに、同じ人が話した → 同じ人の考えは聞かない（姿勢（手遊びあり） → 正対（拍手）
- 話しているのは、サガサガ
- あつちが、あつち（仲良い男→男女）
- あつちが、時間を取りすぎ
- お題のハイローは、あつちが

目的

- あつちが、あつちが
- コミュニケーションアップ
- 聞く力
- 話す力
- 考える力

お題

- 相対話（お題）
- お題、お題、お題
- お題、お題、お題

目的を意識して、

楽しい時間をすごそう

あつちが、あつちが

- ①あつちが、あつちが
- ②男女

聞く 話人テスト

- ①正対
- ②拍手・反応

話す 話し内容の準備

- ①言いたいこと
- ②短くわかりやすく

フリーク  
2周目の  
Point

1周目の成果

コミュニケーションカ  
聞く力

聞く力、あつちが、あつちが

フリークの流れ

- ①お題の発表
- ②フリーク
- ③ふりかえり
- ④次回のお題
- ⑤先生から

課題 フリークでどんな力が付いたか。

《話す人》

- すぐ判断する力
- 意見は、お題に伝える力
- フリートーク → 繋ぐ（フリーク） 正対
- 全体の場で表現する力
- いろいろな場面で

聴く人

- 拍手+声の反応
- シガー

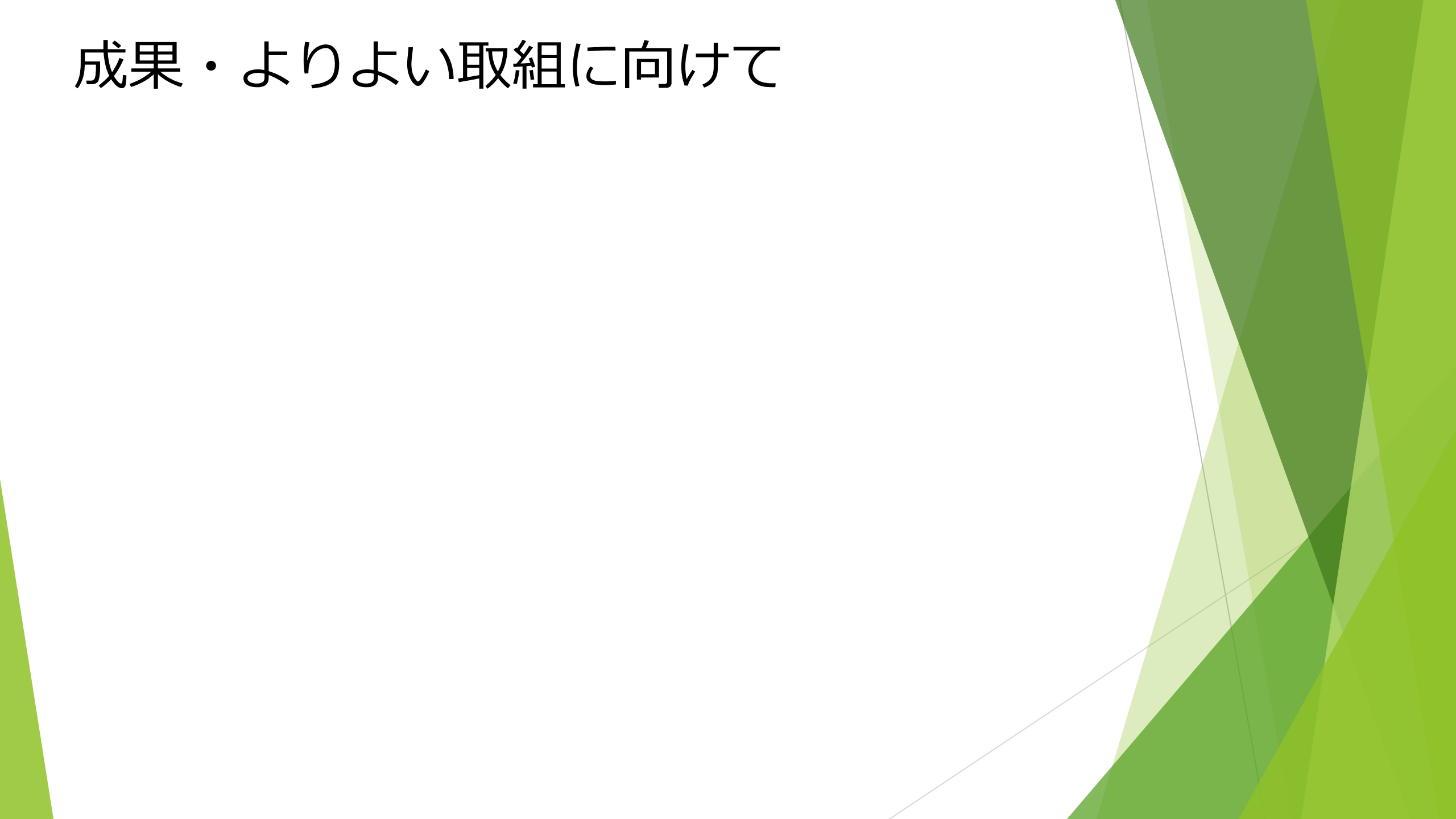
Good

成長の力

振り返り → 次に繋ぐ



成果・よりよい取組に向けて



## <成果>

- 取組の目的を児童の言葉で確認できた
- 多様な方法（特に価値語）

## <R7年度に向けて>

- ほめ言葉のシャワーの方法について確認する（子供たちと生み出す・研修で話し合う・実践を互見する）
- 地域貢献・発信

目的→必要に応じて振り返り→ブラッシュアップ

# 県の改善の重点を 受けた授業研究

5・6月授業公開

フォローアップ研修

指導教諭による授業観察

外国語セミナー

特別活動授業公開

指導主事を招聘しての校内研修

## 5月10日（算数）清水教諭

より研究テーマに向かうために

ますの体積を求めた後、水の量が確認できる動画を流し、計算で求めたますの体積と水の量が一致しないことを確認することは、ますに厚みがあり、内のを求める必要があることを理解するために有効であった。一方で、写真だけでなく実物や内側も見えるようにかかれた見取り図があれば、C層の児童にもますの容積が直方体であり、計算で求められることを理解しやすくなる。



ペアトークを行うことで、理解を深める児童もいたが、一方で児童の誤答がなくなり、ねらいを達成できたかの見取りが難しくなった。ペアトークを行う際にはタイミングを考えて行う必要がある。



## 5月24日（体育）丸小野教諭

より研究テーマに向かうために

### 【情報活用能力】

- 問題発見場面において、前時の児童の姿を記録した動画を見せることで、本時の課題を焦点化したり共有したりすることができた。
- 自分たちのプレーを客観的に捉えさせるために、各チームに試合の様子を録画させた。しかし、作戦タイムの中で、記録した動画を十分に活用できていない実態もあるため、ICT活用については、児童がその有効な使用方法に慣れておく必要がある。
- 対戦相手のチームと互いにアドバイスし合ったり、よさや頑張りを伝え合ったりすることで、他者評価に基づく児童のメタ認知を向上させる効果が期待できる。



### 【個別最適な学び】

- マイゴールやグループのめあてを立てる際の視点を、児童と共有しておくことが大切。学級全体で本時のめあてを確認した上で、各チームのめあてを話し合わせたため、学級の課題に沿っためあてを考えさせることができた。
- 試合を進める中で、ホワイトボードに書いたチームのめあてを加筆修正したり、ホワイトボードに書いていない作戦を個々で考え実践したりする姿が見られた。チームの実態に即したよりよいめあてを立てさせるために、途中での変更を可能にしたり、個々のめあてを学習カードに記録させ、一人一人の成長を見取れるようにしたりすることも大切。



## 5月17日（外国語）片山教諭

より研究テーマに向かうために

マイゴールの活用方法を考えることが大切。  
(提示のタイミングやめあて等との関連)

中間指導の活用が、子どもの思考を促すために有効だった。

マイゴールで児童個人の課題意識を醸成

- ①教師モデルで目指すべき姿を捉える
  - ②中間指導での児童の活動の比較（子供モデル）
- 上記2点を取り入れることで、ねらいに沿ったマイゴールを立てることにつながると考えられる。



目的意識の継続

- ①「校長先生に質問するなら」という相手意識を確認する発問（児童の推測を促す）
  - ②中間指導での「どんな質問を意識している？」などの問い返しによる焦点化
- 上記2点を取り入れることで、目的意識を継続して、本時と単元のつながりを意識できると考えられる。



## 6月14日（家庭科）蔦谷教諭

より研究テーマに向かうために

### 【日常とつながった単元計画】

- キラキラ掃除（家庭）→授業→キラキラ掃除（家庭）とつながっている
- 普段頑張っている掃除でもまだまだ落としきれないところがあるという気づきから、よりキレイにするためにという意欲につながっていた。
- 前時の「のっている汚れの掃除」の学習が生かされていて、今日何をするのかをよく分かっていた。



### 【家庭科において育成を目指す資質・能力】

実習や観察・実験、調査、交流活動の結果等について、考察したことを根拠や理由を明確にしてわかりやすく表現する力

- どんな道具が、どんな汚れに効果的だったのかを子供たちが出し合った後にまとめられるとよかった。・・・（例）水あかにはクエン酸+歯ブラシがよい（理科の「水溶液との性質」との関連性あり）
- 板書から、比較を促すような発問があると良かった。
- こんな汚れには、こういう風にしたらキレイになるということが整理されると、キラキラ掃除にもより生かすことができると思われる。

実物

ペアトーク

自分事

既習

可視化

中間指導

マイゴール

教師モデル

目的意識

動画

学習の記録

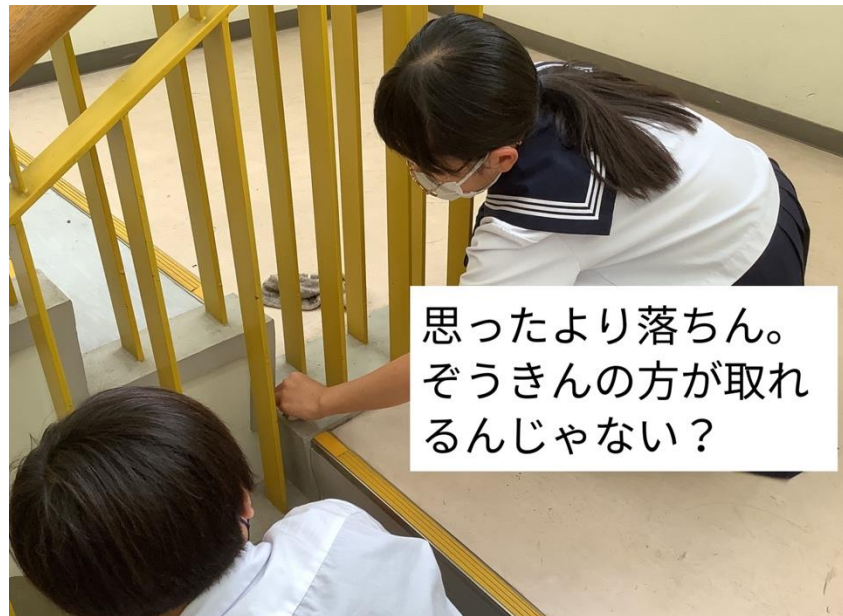
ロイロノート

環境づくり

根拠となる資料



# 情報活用場面（本物・実物）



生の声

試す

「どう使おうかな。」  
「やってみて、考えよう。」

手応え

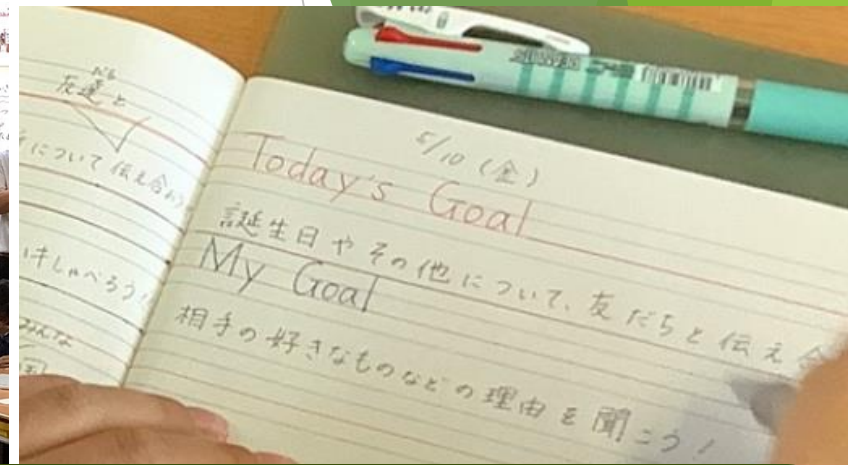
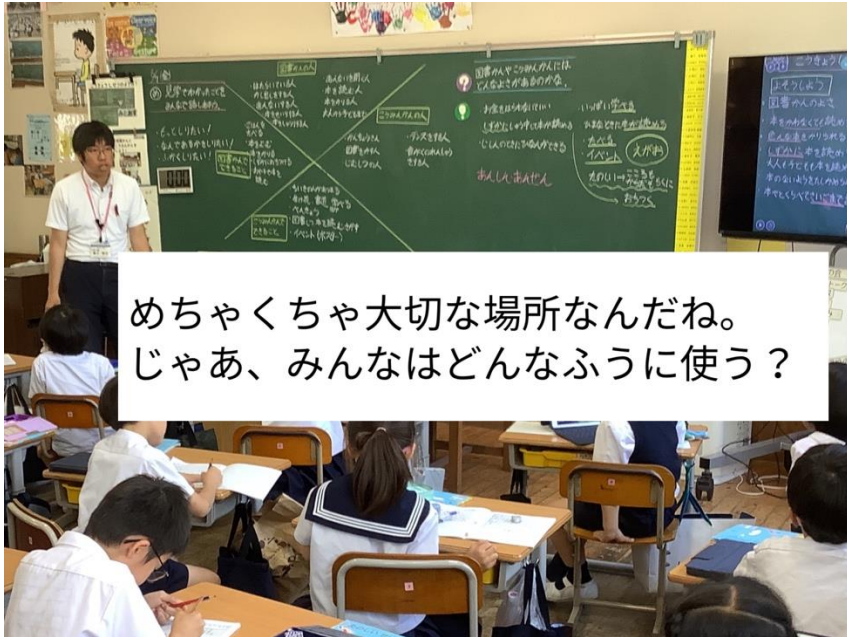


# 情報活用場面 (ペア・グループ)

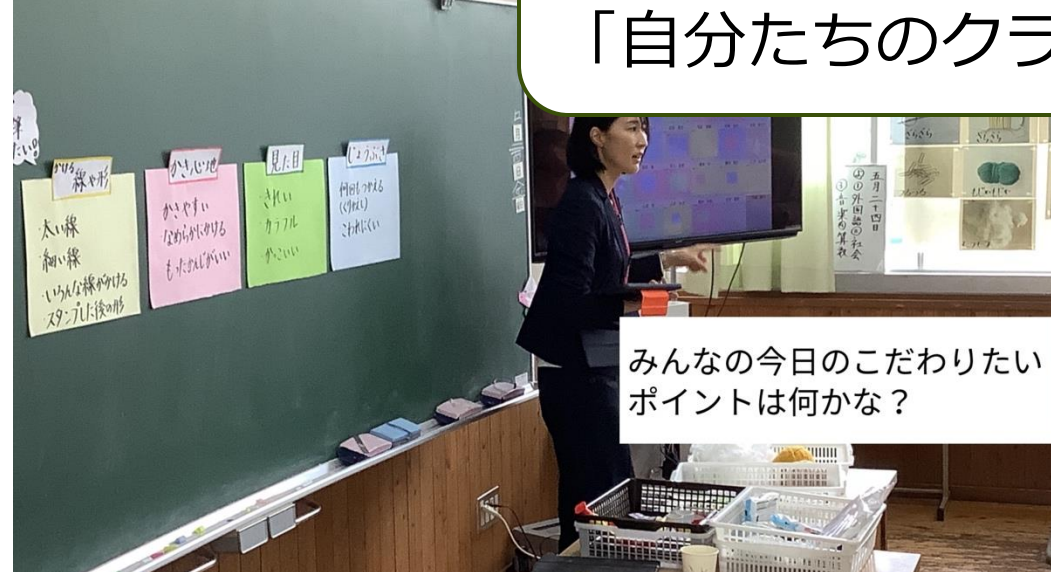
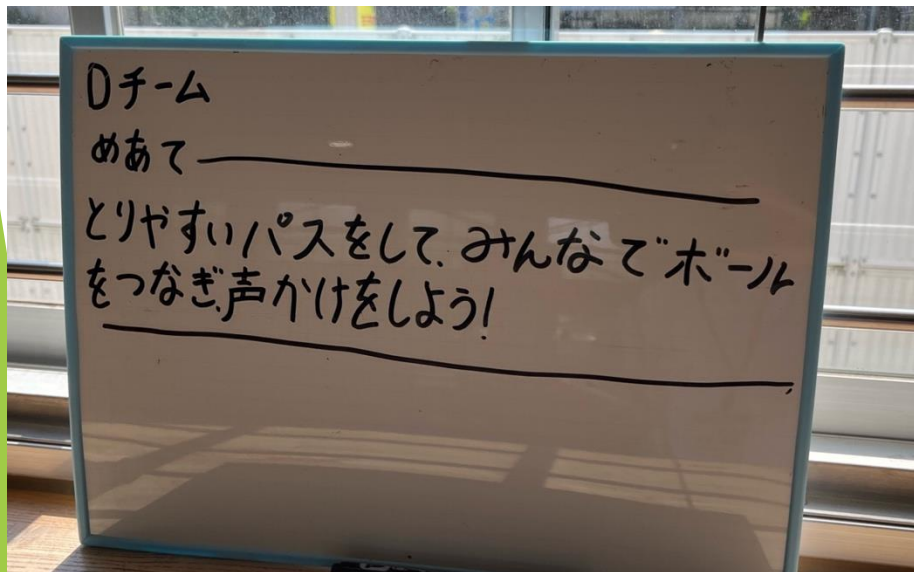




# 情報活用場面（自分事・マイゴール）



「自分だったら・・・。」  
「自分のチームは・・・。」  
「自分たちのクラスは・・・。」





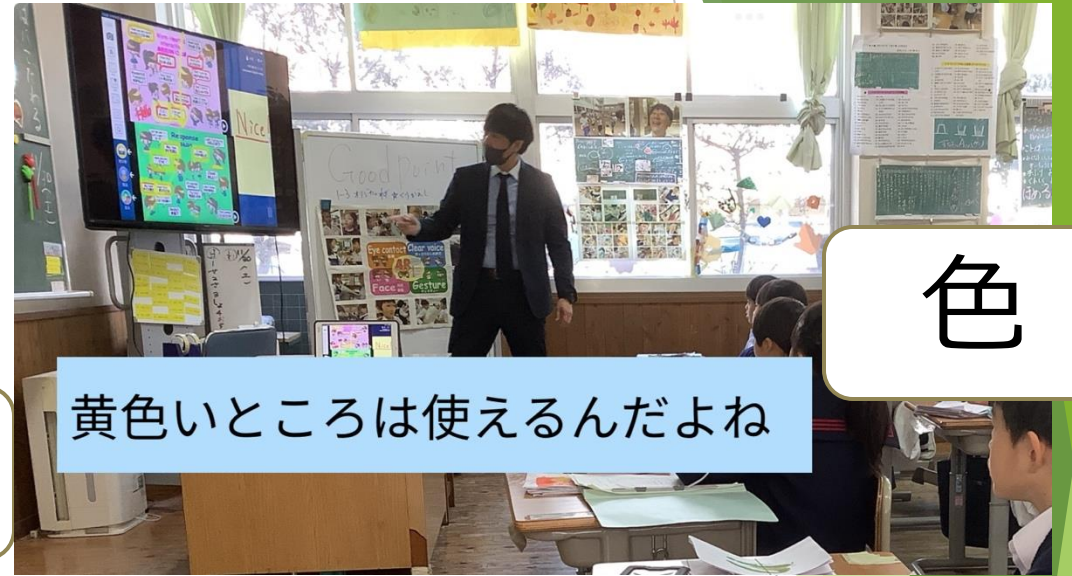
# 情報活用場面 (可視化)



図



挿絵・表情



色

黄色いところは使えるんだよね

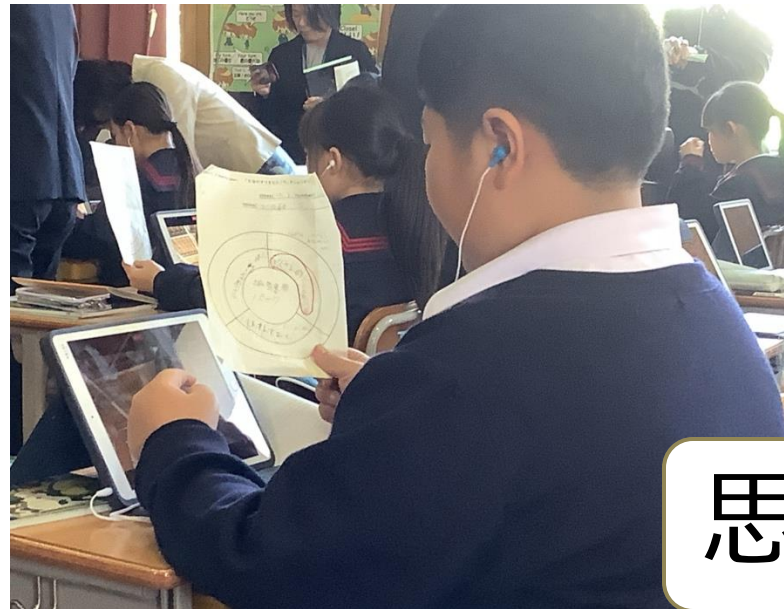
3つの水溶液を見分けよう。

調べる方法 (実験方法)

	① (にお)	② 熱める	ふる	実験した結果、正体は?
A	海塩、(にお) におわない 2人	何も (にお) ない (にお) した人	ふ5分 ねた	
B	白い固体 (にお) する 1人	白い固体 平たい。	白く 1=	
C	白い固体 (にお) する	白い固体 変化 ない。		

調べる水溶液

表



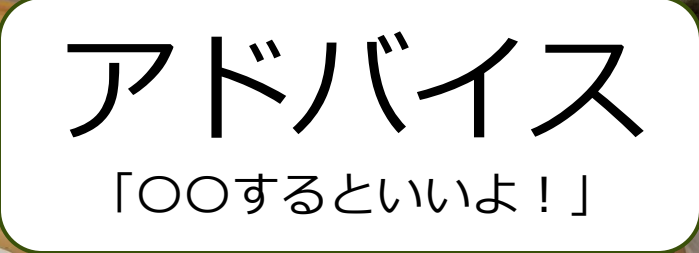
思考ツール



みんなに知ってほしいことを教えてね

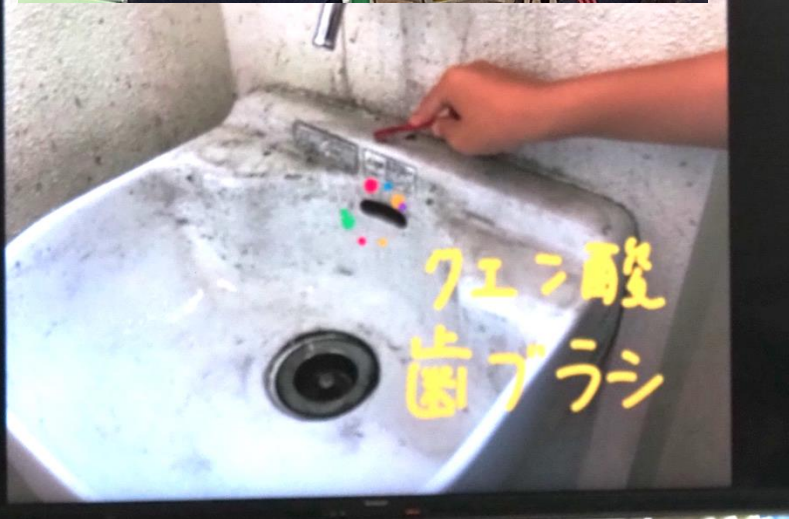
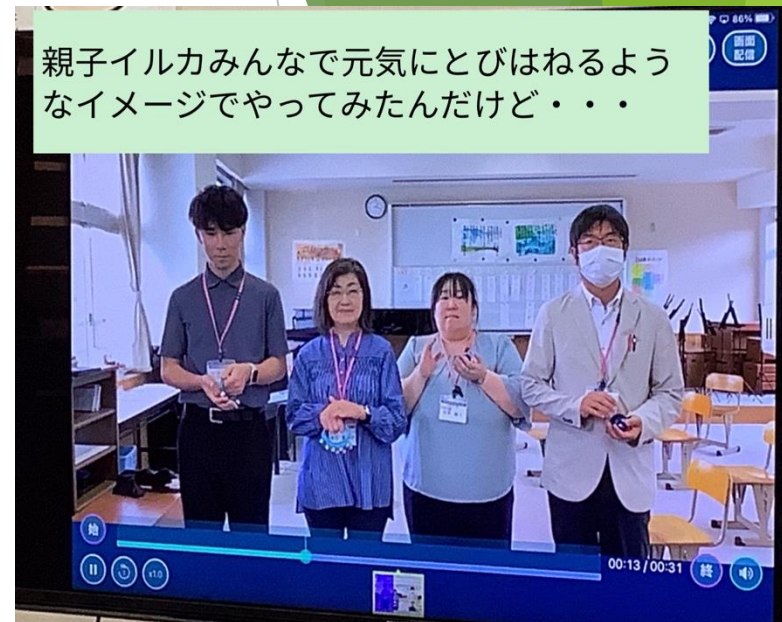


# 情報活用場面（中間指導）





# 情報活用場面（写真・動画）



予想・見通し

「〇〇なるはず。」  
「□□じゃないかな。」

モデル

「そんな方法もあるのか。」  
「こうすれば解決するんじゃないかな。」



# 情報活用場面 (学習の記録・既習・ロイロiPad)



## 既習表現

「使える表現ないかなー。」

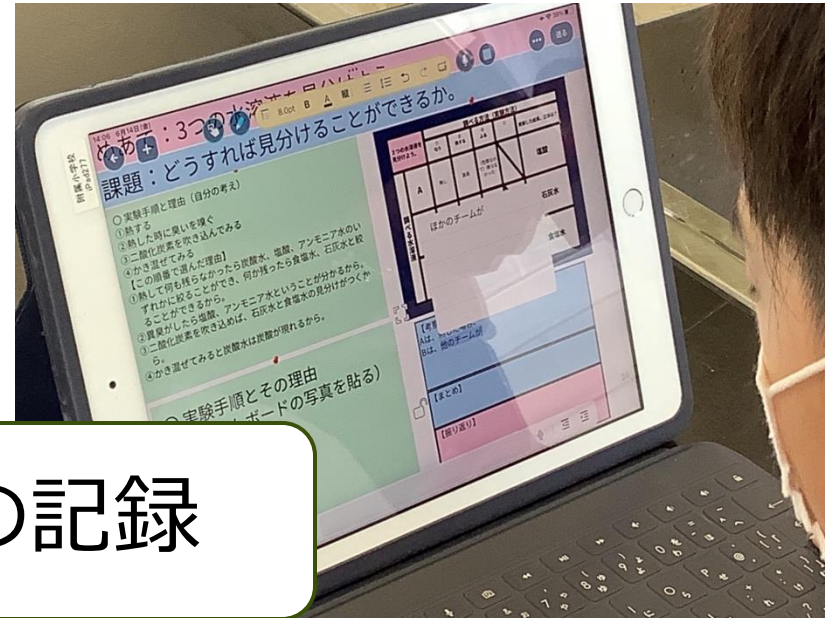


## 友達の状況・考え

「みんなはどうしているのかな。」



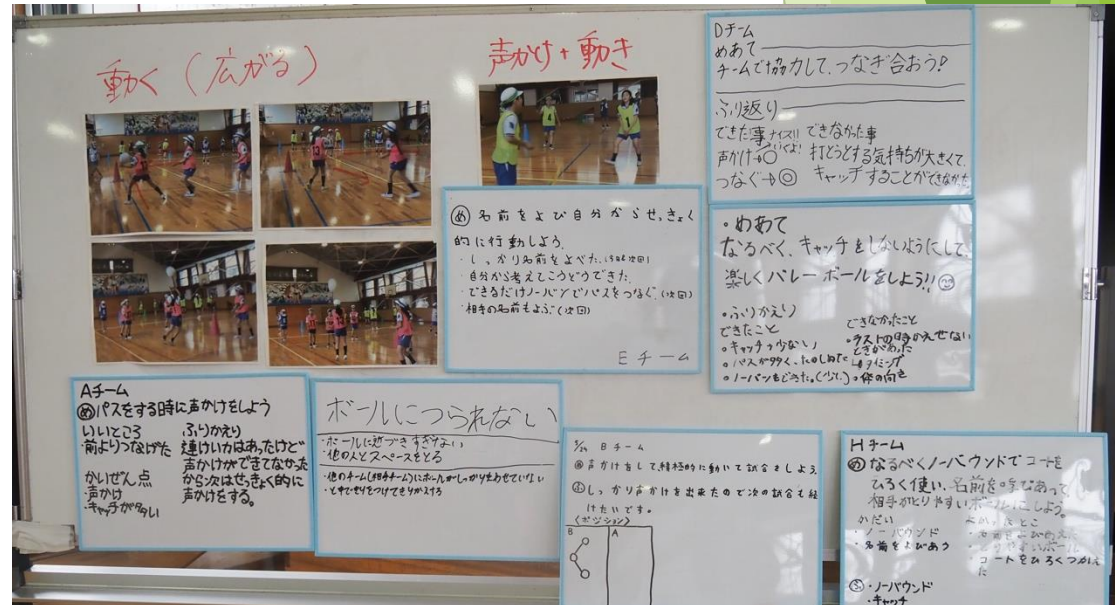
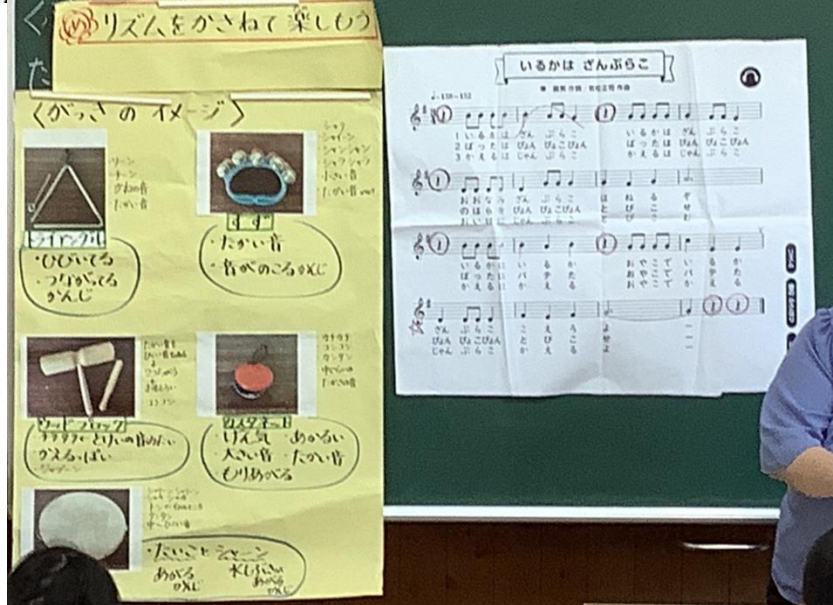
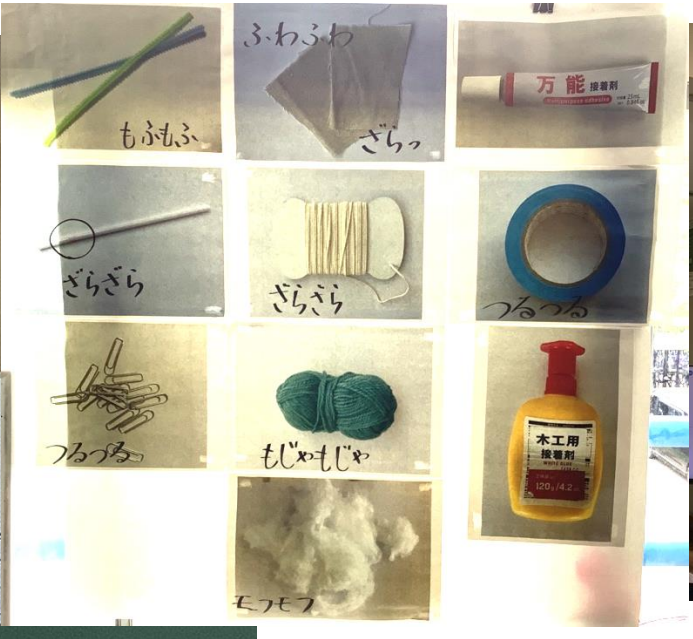
## 根拠となる資料探し



## 学習の記録



# 情報活用場面 (学習の記録・既習教室掲示①)





# 情報活用場面 (学習の記録・既習教室掲示②)

## たんけんで分かったことをまとめよう!

くらべる

みつける

話し合ってカードをふやそう!

## 商品の工夫

大分県産の野菜多い 地元の食材を  
旬・季節のものを入れたい  
旬・季節のものを入れたい

## 商品の工夫

お店に音楽 楽しい  
お店に音楽 楽しい  
お店に音楽 楽しい

## 商品の工夫

お店に音楽 楽しい  
お店に音楽 楽しい  
お店に音楽 楽しい

① ざりめき フォロに

② わくに入れる

③ がわがす

じ	ぎ	り	み	ひ	に	ち	し	き	あ	い	う	え	お	か	み	の	ば	す	お	と
や	や	や	や	や	や	や	や	や	あ	い	う	え	お	か	み	の	ば	す	お	と
り	り	り	り	り	り	り	り	り	あ	い	う	え	お	か	み	の	ば	す	お	と
よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	よ	あ	い	う	え	お	か	み	の	ば	す	お	と

かたかなは、のばすおとが  
いっぱいある。

あ ↓ おか あさん  
い ↓ おい いさん  
う ↓ おう うえん  
え ↓ おえ えん えん  
お ↓ おか み

「は」と「が」

「は」と「が」

「は」と「が」

「は」と「が」





# 情報活用場面（環境づくり）



## 選択

「どれにしようかな」



## 試す

「どう使おうかな。」  
「やってみて、考えよう。」



# 情報活用場面（**外国語**）

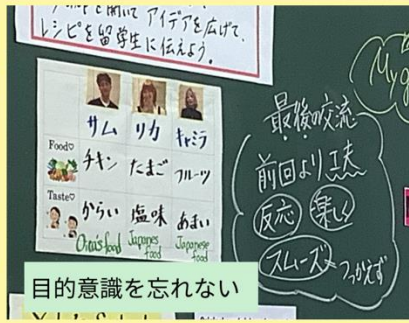
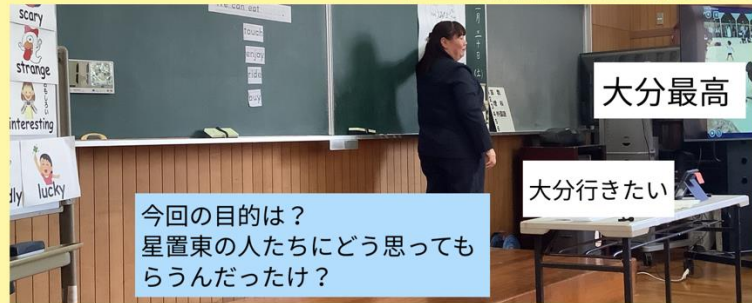
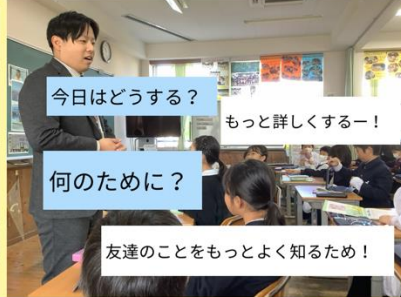
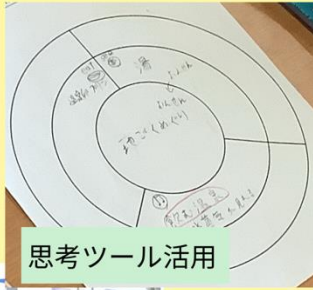
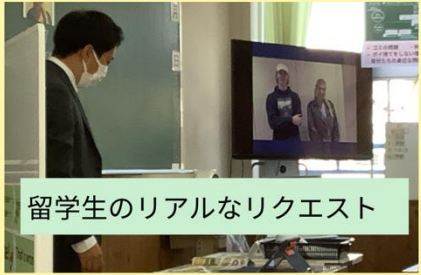
外国語セミナー 全体会「本年度のテーマ」

## 単元ゴールにつながる 必然性ある英語表現等の活用

- ① 子供が**既習**の語句や表現を活用し、  
**伝え合う必然性**を生み出す工夫
- ② 子供が**既習**の語句や表現を、**より  
よく活用**できる手立ての工夫



# 情報活用場面 (外国語セミナー)





# 情報活用場面（外国語）

## 2. 単元について

必然性	大分大学の留学生におすすめするオリジナルサンドのアイデアを広げるために、どんな食材がほしいか尋ね合う
リアル感	大分大学留学生へのオリジナルサンドの紹介が実現する
楽しさ	オリジナルサンドに入れたい食材を考えたり交換し合ったりする楽しさ
相手意識	オリジナルサンドに入れたい食材について友だちに伝わるように質問したり答えたりしようとする意識 大分大学の留学生が喜ぶオリジナルサンドをつくろうとする意識

- 目的や、相手の状況の確認
- 付けたいとねらっている資質・能力に関する活動の時間をしっかり確保する

成果・課題・今後チャレンジしたいこと・キーワード





何から始めてるんだろう・・・

# 情報を手に入れる ために行動する力



どうだった？

イメージに合った。

ゆるやかになった。



筆の先を綿を使って、作りたいんだけど、どうすればいいか・・・



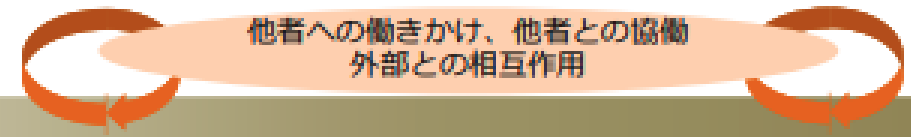


# 「情報活用能力」の育成

目的や目標、課題の解決に向けて、  
「どの情報が最適か」「どの方法が最適か」を  
自分で選んで自分で決める。

思考力・**判断力**・表現力

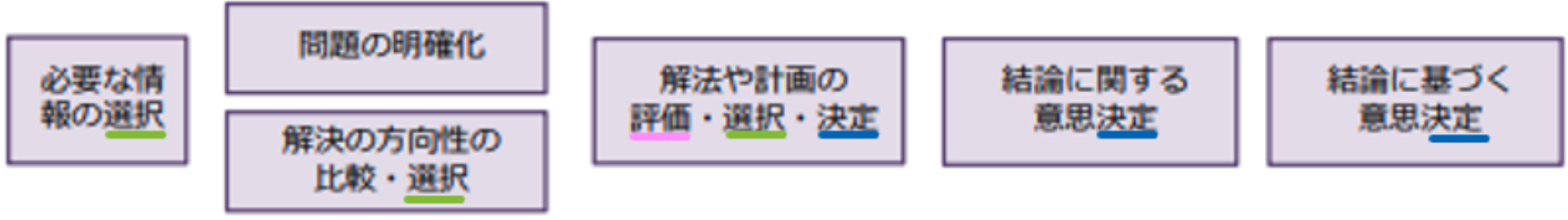




問題発  
ブ

問題の定義      解決方法の探索      結果の予測

判断



# 選択 決定 評価

# 環境づくり

の 例

言語表現、言語活動（記号や図表等による表現も含む）



# < 「情報活用能力の育成」の研究から見えてきたこと >

○子どもが、必要な情報や方法を

## 「自分で選ぶ」「自分で決める」

機会を意図的、計画的に設定し、そのための

## 学習環境づくり（学びの足跡、資料、学習道具 等）

を豊かに柔軟に設定・提供することが大切。

→ **個別最適** な学びのための手立て

○友達やGTなどの情報は有効。新たな視点、修正点などに気づき、深く学ぶ（比較・関連・拡散 等）チャンス。

→ **協働的** な学びのための手立て





# 令和7年度校内研究テーマ（案）

グローバルリーダーに求められる

エージェンシーの育成

～自己調整学習を通して～



# “エージェントシー”

「変化を起こすために、

**自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力」**

# “自己調整学習”

「学習者が、**メタ認知、動機づけ、行動**において、

**自分自身の学習過程に能動的に関与していること」**



# 自己調整学習のイメージ

# “エージェンシー”

## 《振り返り・自己省察》

「自己評価」「原因の分析」「方略の修正」  
うまく登れたかな？  
なぜ、上手く登れたかな？  
次は、どうしようかな？



## 《行動・遂行コントロール》

「モニタリング（現状の把握）」「コントロール」「注意の集中」  
順調に登ってきたかな？  
この先登れそうかな？  
ルートはいいかな？



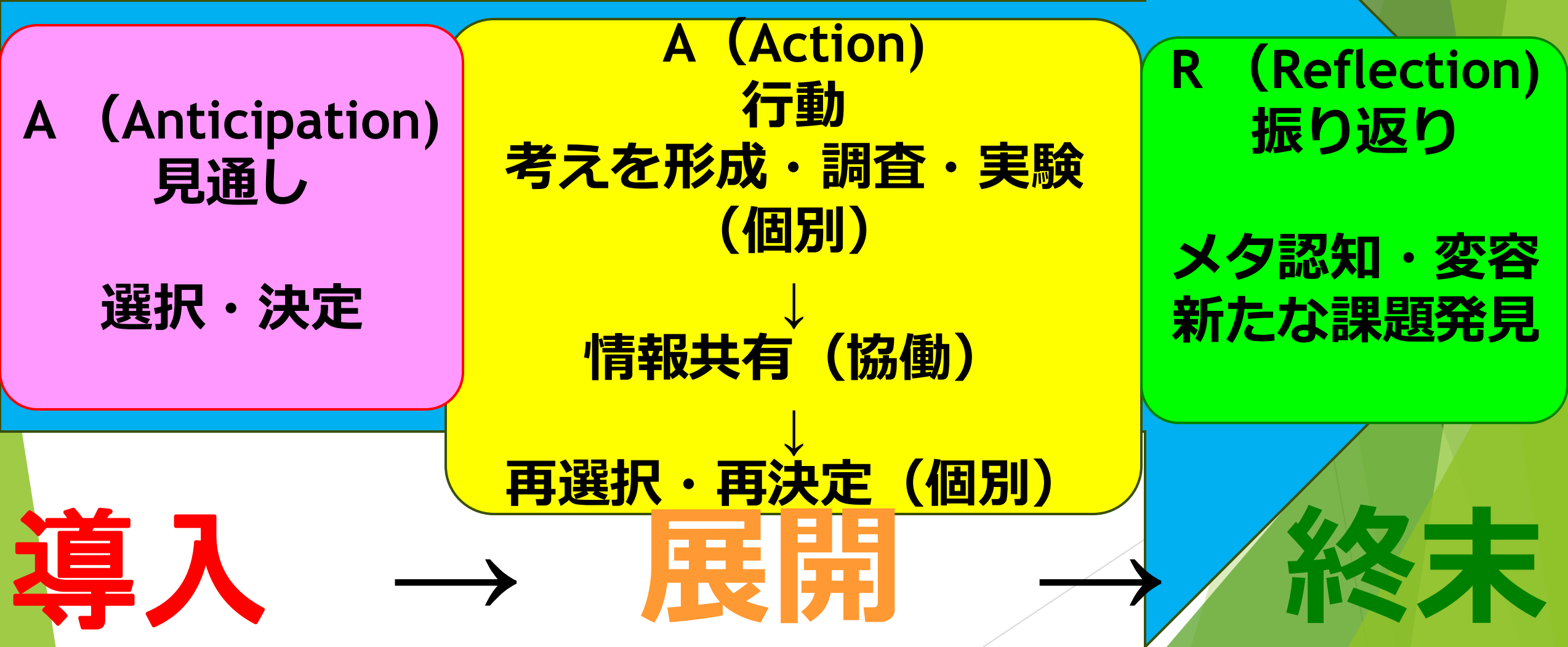
## 《見通し・予見》

「目標設定」「興味関心」「自己効力感」  
この山、登りたいな。きっと登れる。  
どのルートを通ればいいかな？  
どんな装備が必要かな？

目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力



# 自己調整学習の授業のイメージ





グローバルリーダー（Think globally、act locally）の育成  
～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、  
自己を磨き合う子どもの育成～

受  
け  
の  
県

外  
国  
外  
国

グローバルリーダーに求められる  
確かな学力の育成  
～情報活用能力の育成～（2年次）

究  
点  
を

学級経営

# 外国語活動・外国語科について

<今後**実施しない**こと>

- 外国語ミニスキルアップ研修（全体校内研修）
- 外国語セミナー
- 指導教諭等による外国語の授業観察

<**残す**こと・**形を変えて取り組む**こと>

- 全学年で授業をすること
- 1年目の職員を対象にしたミニスキルアップ研修  
(外国語部主催)



グローバルリーダー（Think globally、act locally）の育成  
～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、  
自己を磨き合う子どもの育成～

## 各教科の授業研究

グローバルリーダーに求められる  
エージェンシーの育成  
～自己調整学習を通して～

「わからない」「でも…」が自覚かつ表出できる、**安全・安心な学習環境**

## 学級経営

# ①本校児童に付けたい力（職員アンケート）

「情報を活用して、考えを具体的に伝える力」 「有言実行」 「対話」  
 「自ら学び、他者と学びを分かち合う」 「学びをつなぎ生かす力」  
 「何が自分でできるか判断」 「目標に向かって努力」 「実行する力」  
 「自分で考える」 「寛容」 「持久力」 「学び合う」 「振り返りの充実」  
 「個別と協働の両輪」 「個別最適」 「省察」 「自分事」 「見通し」  
 「自己調整」 「自己指導能力」 「メタ認知」 「自分の学習を自分で調整」  
 「動機づけ」 「学習方略」 「判断する力」

# ②R6年度 授業観察結果より

B 授業 展 開	まとめ 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対応した適切なまとめとなっているか。</li> <li>・習得した学びを振り返ったり、次時への学びを意識したりできる内容になっているか。</li> <li>・振り返りの視点を与えているか。</li> </ul>		
	時間配分設定 ファシリテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習過程における時間配分は適当か。</li> <li>・教師がしゃべりすぎしていないか。動線や声かけ等は意図的か。</li> </ul>		
	板書 教材・教具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的に思考できるように比較や関係付け等の工夫をしているか。</li> <li>・子どもの思考の流れに沿った板書や板書の工夫をしているか。</li> <li>・ICT（1人1台端末を含む）やホワイトボード、掲示物等の教材・教具を効果的に活用しているか。</li> </ul>		
	きめ細かな指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟の程度を掴むための工夫をしているか。</li> <li>・特別な支援が必要な子どもへの支援を工夫しているか。</li> <li>・C評価の子どもを中心に子どもの思考や困りなどを適切に予測、具体的な支援をしているか。</li> <li>・個別最適な学び、協働的な学びを授業作りの視点に入れているか。</li> </ul>		
	自己存在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの思考する時間を確保しているか。</li> </ul>		

R4～R6  
 「まとめ・振り返り」  
 「きめ細かな指導」  
 が課題



# ③ FUSYO

## VISION

2024

育成を目指す資質・能力	知（確かな学力）	徳（豊かな心）	体（健やかな体）
知識・技能	言語能力	礼儀	持久力
思考力・判断力・表現力	情報活用能力	公共	自己認知力
学びに向かう力・人間性	調整力	寛容	自律

## ④ 学習指導要領（総則編）

「児童（生徒）一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り開いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。

「これらは、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる『メタ認知』に関わる力を含むものである。

# ⑤文部科学省「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等のあり方に関する有識者検討会」 論点整理

## 1. これからの社会像とこれまでの学習指導要領の趣旨の実現状況

### (1) これからの社会像

- 人口減少・少子高齢化や地球環境の有限性を踏まえた持続可能な社会づくり
  - ・一人一人が可能性を开花させなければ国が立ち行かない状況
  - ・資源や環境の有限性を踏まえつつ、環境・福祉と経済を両立していく必要性
  - ・コミュニティ存続が現実問題となる中、地域におけるヒト・モノ・カネの循環や幸福・福祉(well-being)の向上も喫緊の課題であり、当事者意識を持った社会の創り手を育てる必要性
- 公正な社会における多様な子供たち一人一人の豊かで幸福な人生の実現
  - ・不登校児童生徒や特別支援教育の対象となる児童生徒、外国人児童生徒など、特異な才能を有する子供を含め、教育的支援を要する子供が増加し、子供たちの多様性が顕在化
  - ・子供の貧困など、世帯の経済的困窮等を背景に教育や体験の機会に乏しく、様々な面で不利な状況に置かれてしまう傾向にある子供たちの存在
  - ・こうした多様な子供たちを学校教育の中で包摂し、特定分野に突き抜けた興味や関心を示したり特異な才能を有する子供等も含め、一人一人の強みを伸ばしつつ、より良く資質・能力を育てていくことにより、豊かで幸福な人生を送ることができるようにすることが重要
- グローバルな協働
  - ・グローバルな競争が進む中であって、国内外で異なる価値観を持った人々と、協働による課題解決も求められる。一方、国際的な分断や対立等も鮮明となっており、インターネットやSNSを通じてアルゴリズムで選別された自分の好む情報のみを取得することになる現象(フィルターバブル、エコーチェンバー)がそうした分断や対立を加速化させているとの見方もある。

- 生成 AI の加速度的発展など変化の加速化・非連続化
  - ・生涯に亘って学び続ける資質・能力がこれまで以上に重要に
  - ・テクノロジーと持続可能な社会の実現が重なる部分で価値を生み出せる社会へ
  - ・既存の情報を整理・分析するだけなら AI の方が有能。AI やデータを十全に使いこなすことは前提としつつ、豊かな人間性を育むこと、個々の情報の意味を理解し問題の本質を問うこと、課題を発見したり設定したりすることの重要性が高まる
  - ・そうした中で得られる質の高い知識が社会をよりよい方向に革新していく重要な基礎や基盤となる
- 前回改訂時に2030年頃の未来として描いた社会像が想像以上の速さで現実化。これを危機と捉える議論に正対しつつ、むしろ未来を切り拓く絶好のチャンスと考える必要。その際、非連続的な変化が予想される未来に向き合って教育の在り方を考えることと、学校の現在の課題に向き合って連続的な今を生きる子供たちのよりよい学びや幸福を確かなものにしていくこと、よりよい教育を通じてよりよい社会の創り手を育てるという発想のいずれも大事にしながら今後の教育課程の在り方を検討する必要。
- 学校の本質的な役割の再認識
  - ・新型コロナウイルス感染症拡大の防止のための臨時休業や様々な接触防止の対策等を経る中、学力の保障のみならず、全人的な発達・成長を保障するという役割、他者と安全・安心につながるができる居場所・セーフティネットとしての福祉的役割など、学校が持つ様々な役割が改めて実感を伴って理解された。
  - ・学校は、学年・学級という生活を共にする集団の中で、多様な他者に出会い、共感や軋轢の中で自己を知り、高めるとともに、他者どどのように共存するかという、社会を形成していく上で不可欠な人間同士のリアルな関係づくりを子供たち相互の関係で学ぶ貴重な場となっている。
  - ・このような多様な背景を持つ児童生徒が学ぶ場所としての学校の役割は、包摂的で、他者への信頼に基づく民主的・公正な社会を実現していく基盤として一層重要となっており、社会の分断や格差を防ぎ、持続可能な社会の創り手を育てる観点からも更なる充実が必要。この点について考える際、教育基本法、学校教育法等の教育関係法規に加え、令和5年度から施行されていることも基本法の趣旨・内容も踏まえることが重要。



## ⑤ 「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等のあり方に関する有識者検討会 論点整理

### 4. 多様な個性や特性、背景を有する子供たちを包摂する柔軟な教育課程

#### (1) 現行の「個に応じた指導」の記述と充実の在り方

- 現行の学習指導要領においても、児童生徒の発達の支援の観点から「個に応じた指導」は重要視され、個別学習やグループ別学習など、一定の指導方法の具体例の記載もあるが、令和3年1月26日中央教育審議会答申の趣旨等も踏まえると、学習者自身が主体的に学習を調整していく観点からの記述が不足。
- 子供が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・方法・ペース等を選択できる学習環境を教師が適切にデザインすることなど、学習者が主体的に学ぶ中で自ら学習を調整しつつ資質・能力を身につけることの重要性やその中で教師が発揮すべき指導性について、具体的に議論し、位置付けを検討すべき。
- 多様な個性・特性を有する全ての子供に資質・能力を育成する上で子供一人一人を見取り、適切な指導や関わりを行う教師の指導性はより積極的かつ高度なものが求められるし、時には教師が主導することが重要な場面もある。「教師は教えなくてもいい」「全て子供に委ねればよい」といった誤ったメッセージとして伝わることのないよう、最大限の注意を払うべき。

本校児童に付けたい力

教師の授業改善の課題

附小ビジョン

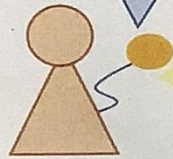
教育の動向

(参考)

Co-ager  
保護者と、  
生徒同士  
支え合う関係



子どもたち一人一人が  
ラーニングコンパスを  
手にしている



Student agency(生徒エージェンシー)

【原則・前提】

自分の人生や周りの世界に対してポジティブな  
与える能力と意志を持っている



変革を起こすために目標を設定  
振り返りながら責任ある行動を取

数学活用能力、  
数学的  
リテラシー

デジタルリテラシー

Taking  
(責任)

(スキル)

社会情動的スキル  
など

未来の創造に向けた  
起こす力

1-1

2030  
未来

個人だけでなく、  
社会、地球全体の  
ing

「生徒エージェンシー」は、  
アイデンティティと  
所属感の発達に関連。  
エージェンシーを育むとき、  
生徒はモチベーション、  
希望、自己効力感、成長する  
思考態度(能力や知能は  
発達可能であるという理  
解)を支えとしてウェル  
ビーイングの方向へ指針を  
合わせる。こうして生徒は、  
目的意識を持って行動でき、  
社会に出て活躍できるよ  
うになる。



「**AAR**サイクル」 (**学習者**視点)  
即時フィードバックによる**実践的で**  
**短期的な評価と学び**に適している。

## 自己調整学習

「**PDCA**サイクル」 (**経営者**視点)  
反復的なプロセスを中長期の継続的な改善に適している。

# 自己調整学習の授業のイメージ

## 3年1組（図画工作科）の実践

### A (Anticipation)見通し



**選択・決定**

### A (Action)行動



### 情報共有（協働）



### R (Reflection)振り返り



**メタ認知・変容**

**導入**



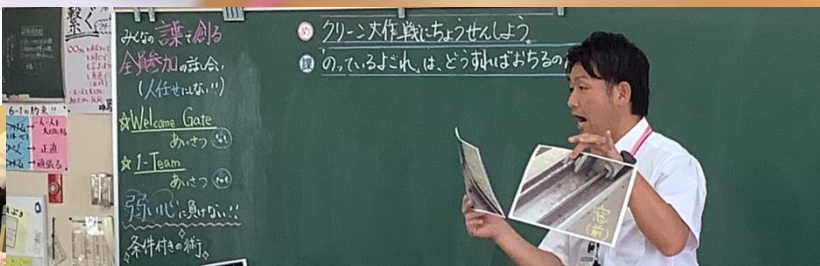
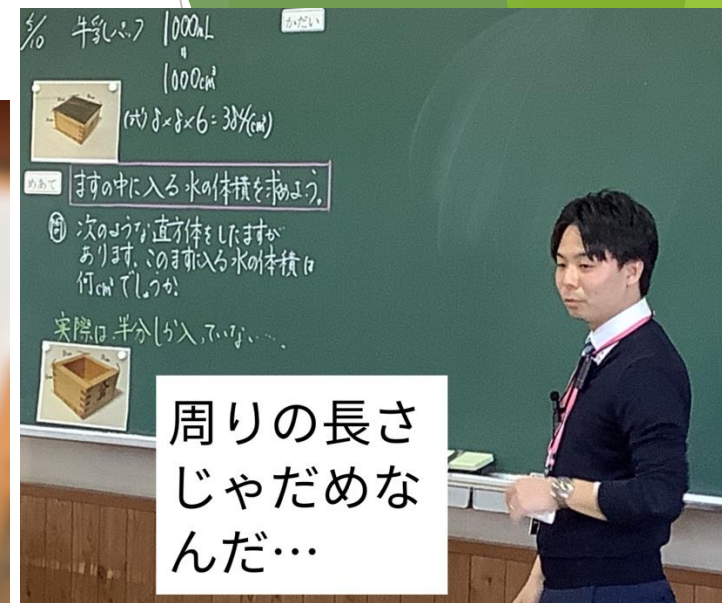
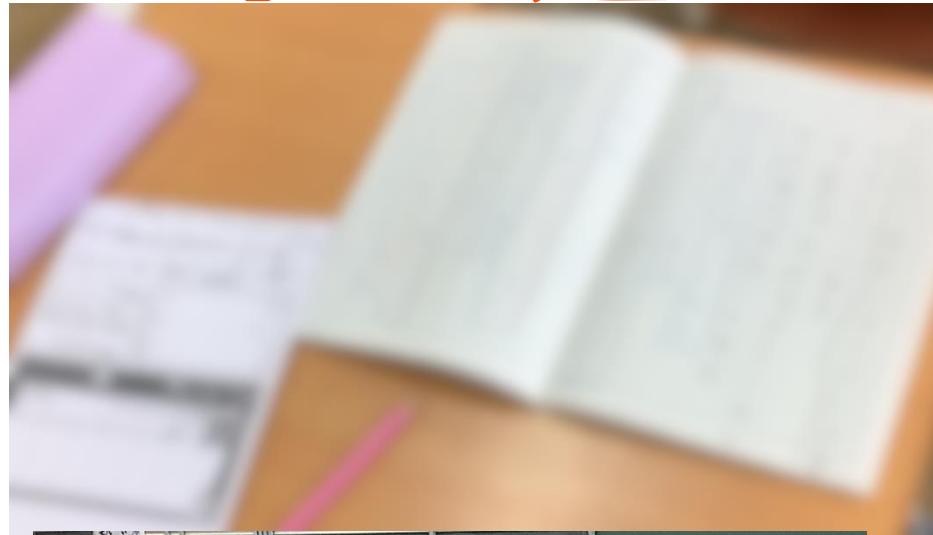
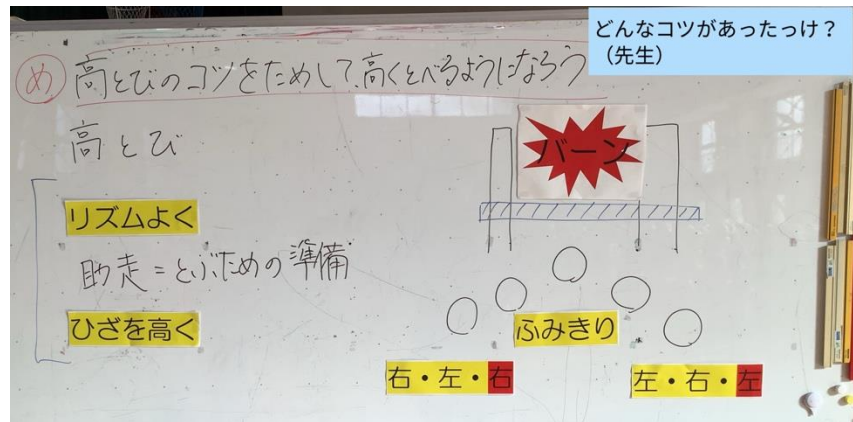
**展開**



**終末**



# A (Anticipation) 見通し



「どんな道具で、  
こんなふうにするとな  
きれいになるんじゃないか」  
を話し合おう！





# A (Actions) 行動



自分が選択した資料（情報）を手掛かりに、課題に迫っていく。



ゆるやかにしたいから、イルカのようにトライアングルをチーンてしたい

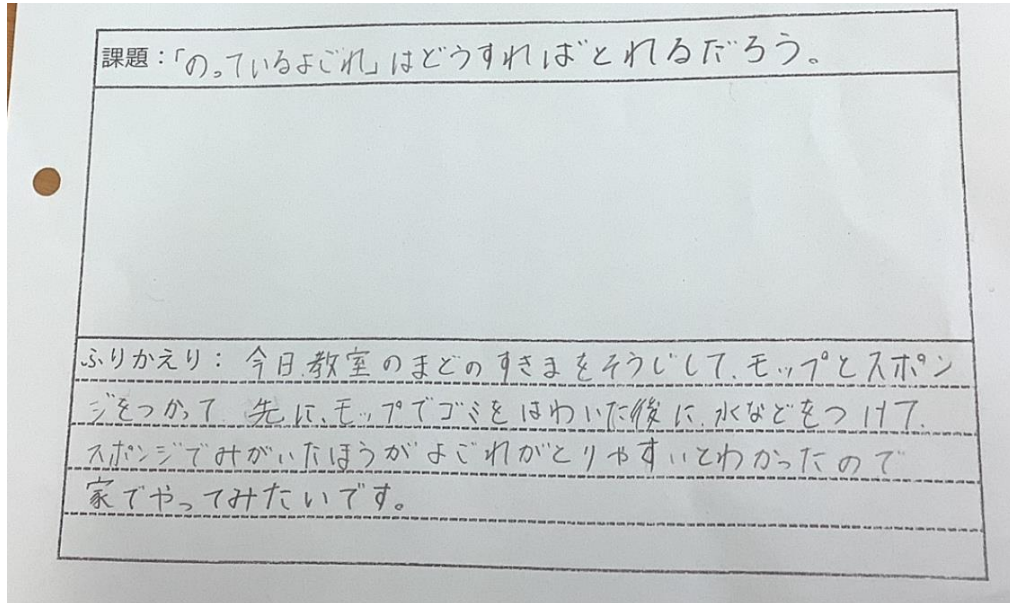
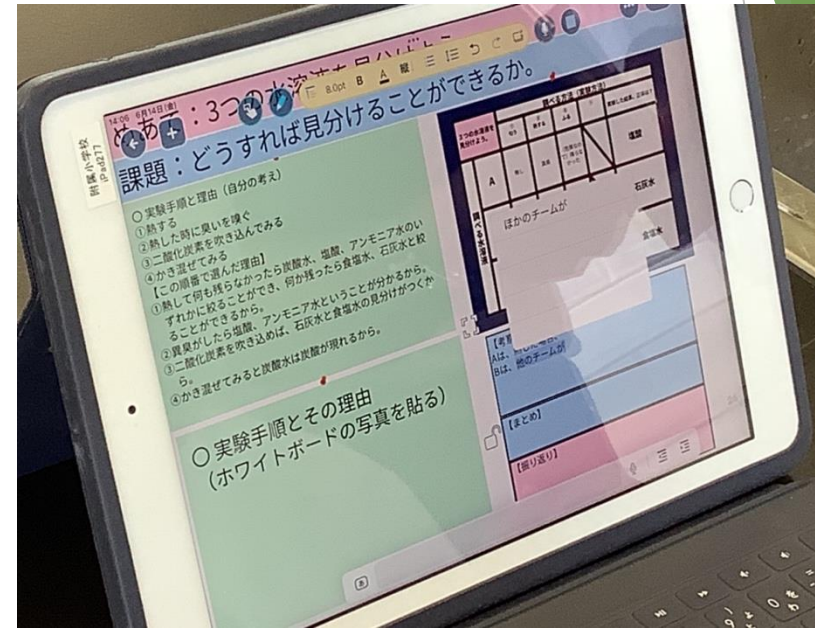


図を使ってもいいですか？





# R (Reflections) 振り返り



# 自己調整学習のイメージ

- 3 《振り返り・自己省察》  
「自己評価」「原因の分析」「方略の修正」  
うまく登れたかな？  
なぜ、上手く登れたかな？  
次は、どうしようかな？

R (Reflection) 振り返り



- 2 《行動・遂行コントロール》  
「モニタリング（現状の把握）」「コントロール」「注意の集中」  
順調に登ってきたかな？  
この先登れそうかな？  
ルートはいいかな？

A (Action)

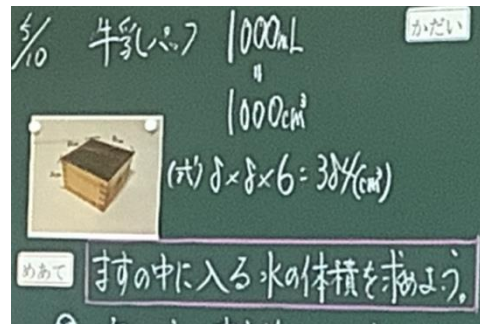
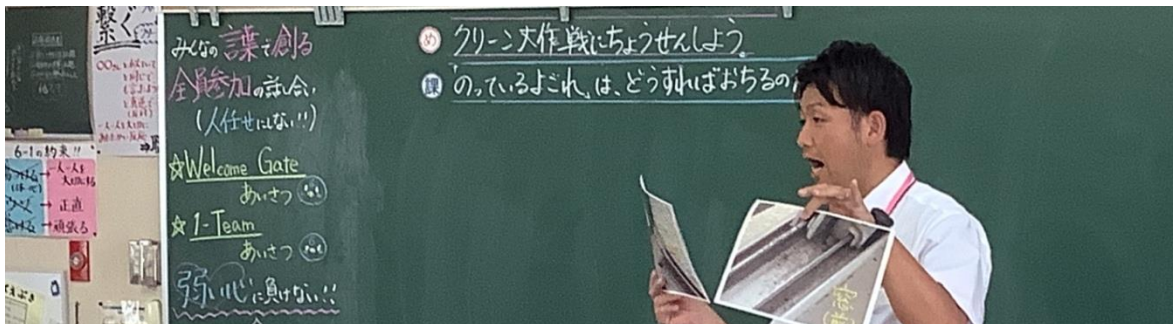


- 1 《見通し・予見》  
「目標設定」「興味関心」「自己効力感」  
この山、登りたいな。きっと登れる。  
どのルートを通ればいいかな？  
どんな装備が必要かな？

A (Anticipation) 見通し

AARサイクル



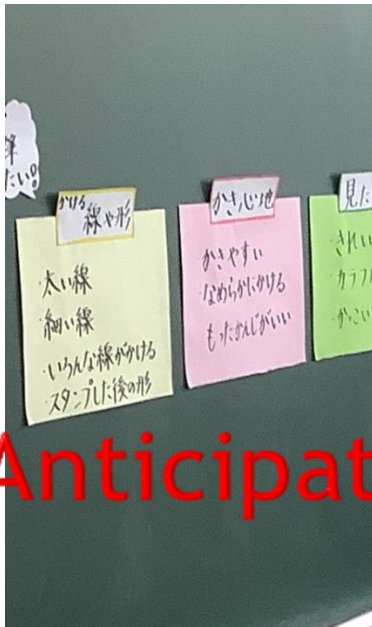


「どんな道具で、  
こんなふうにするのと  
きれいになるんじや  
を話し合おう！」

**「振り返りを生かす」**  
前回〇〇だったから今日は□□するとうまくいきそうだ。

**「可視化」**  
あとで振り返りやすいようにノートやホワイトボードに書く

**「選択・決定」**  
私（私たちの班）は、めあて達成のためにこの方法で学ぼう  
→自分事・当事者意識



みんなの今日のこだわりたい  
ポイントは何かな？

# 見通し

# A (Anticipation)



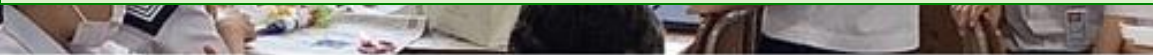
課題が残った

### 「メタ認知」

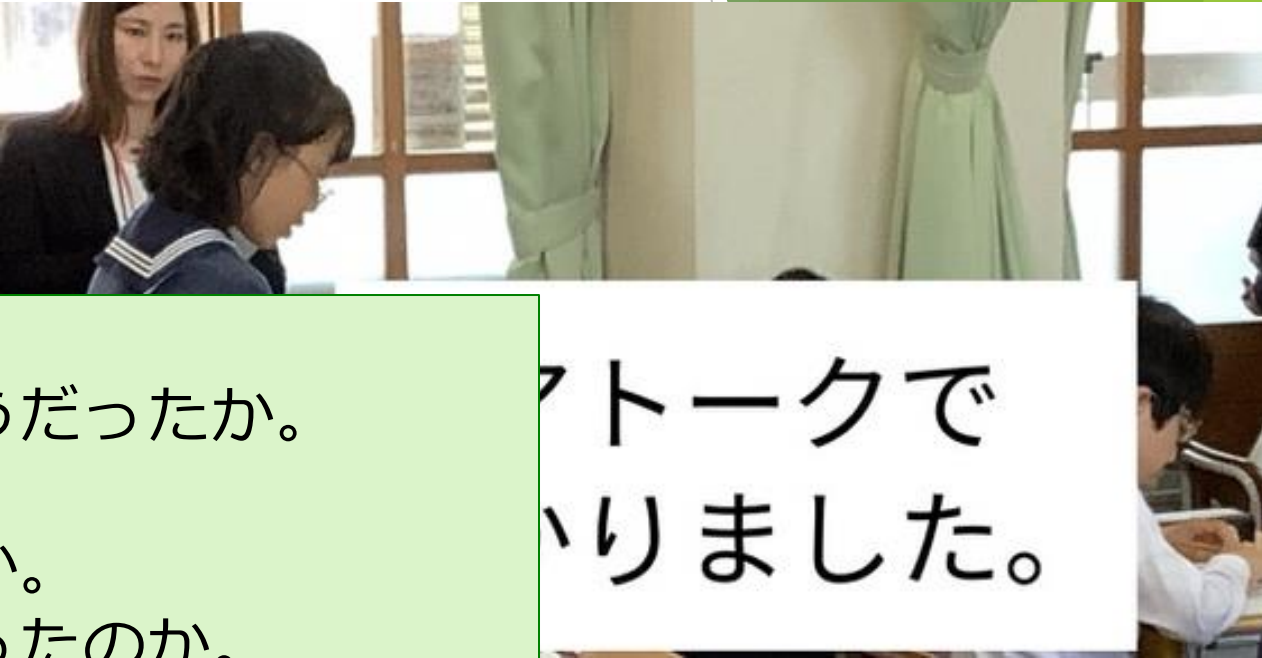
今日の自分の学びはどうだったか。  
変容できたのか。  
なぜ、うまくいったのか。  
なぜ、うまくいかなかったのか。

### 「次に生かす」

次はこのような方法ですると単元のめあてに向かっていけそうだ



みんなのを見たり、  
アドバイスをもらったらできた



トークで  
りました。

# 振り返り

# R(Reflective)



<p>学校教育目標</p> <p>グローバルリーダー (Think globally, act locally) の育成                  ～未来へ向かって高い志を持ち、人や社会と豊かに関わり、自己を磨き合う子どもの育成～</p>	
<p>研究主題</p> <p>グローバルリーダーに求められるエージェンシーの育成</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>研究副主題</p> <p>自己調整学習を通して</p>	
<p>めざす子供像(主題より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分で課題を発見し、目標を設定することができる。</li> <li>○課題解決に向けて責任を持って行動することができる。</li> <li>○自己を分析して振り返り、次に生かすことができる。</li> </ul>	<p>めざす授業像(副主題より)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童と(が)、振り返りを参考に見通しを持って学習計画を立てる。</li> <li>○個別最適な学びや協働的な学びの中で自己選択・自己決定し、課題解決できるようにする。</li> <li>○児童と(が)振り返る。(自己の変容)</li> </ul>
<p>研究テーマ設定の理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①本校児童に付けたい力「見通す力」「実行力」「振り返り、次に生かす力」(職員アンケート)</li> <li>②本校職員の授業における課題「まとめ・振り返り」「きめ細かな指導」</li> <li>③複雑多様な社会の中で「課題意識」「当事者意識」「責任」を持った社会の創り手『エージェンシー』を育てる教育が必要となっているため。(「OECD」「文部科学省」等)</li> </ul>	
<p>研究の視点・内容</p> <p>「AARサイクル(学習者が継続的に自らの思考を改善、行動するための学習プロセス)」を意識した授業改善</p> <p>視点①: 児童が課題解決に向かって、見通しを持つことができるようになるための手立て</p> <p>視点②: 学びの過程と自己の変容を自覚し、児童自ら学びを進めるための振り返りの工夫</p>	
<p>研究方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グループ研究(研究テーマに迫る各教科研究シートの作成・互見授業 等)</li> <li>○指導主事を招聘して、外部評価を活用した授業改善</li> <li>○研究テーマについて県内外の先生方と共に学ぶ授業公開</li> <li>○授業に関する児童アンケート(4月・12月)、職員アンケート(2月)</li> </ul>	
<p>研究のまとめ</p>	

# 終わりに

「情報活用能力の育成」の成果は得られた。

これからも**児童が自分に適した方法や情報を選択・判断・決定**できるような**学習環境づくり**（**道具・学習形態・資料・安心な雰囲気**）を意識した授業改善に取り組むことが必要。

児童が**自ら見通しをもって学びの計画を立てること**、今日の**行動（学び方）**がどうだったのかを、より深い内容（**「変容」「うまくいった・うまくいかなかった理由」**等）で振り返り、**次に繋がられるようにし、児童が自ら学びを進めていく**授業を目指していく。

新しいことを始めるのではなく、**これまでの研究の積み上げ**をしていく！  
児童が**自己調整（選択・決定・メタ認知）**しながら学ぶ機会をより大切にしていく授業研究



- 「個別最適な学びと協働的な学び」 （東洋館出版社 奈須 正裕）
- 「個別最適な学び×協働的な学びを実現する学級経営」  
（明治図書 赤坂 真二）
- 「教えから学びへ 教育にとって一番大切なこと」  
（河出新書 汐見 稔幸）
- 「OECD Education2030プロジェクトが描く教育の未来  
エージェンシー、資質・能力とカリキュラム」  
（ミネルヴァ書房 白井 俊）